

今月の15首

佐佐木幸綱・選

楽器庫の低き天井スタンウェイの静かに眠りゐる夏の闇

原 尚美

紙飛行機折るように記す紹介状なるべく遠くまで遠くまで

月丘ナイル

文字はもう群れて集まることもなし活版印刷すたれてよりは

武藤 義哉

ハキハキと新入社員の滑舌の切り花のような鮮度と思う

奥村 知世

日盛りをよろめぐごとく降りきたり揚羽がおのが影とつながる

谷 ちえみ

小田原城銅門の白壁の奥ゆ湧き立つ白妙の雲

佐藤 博之

軽やかな線に惹かれて触れてみるミナペルホネンの生地にとぶ蝶

鈴木 陽美

雛は死に親鳥は去つた 公園にゲートボールの甲高い音

森部 信次

チベットの言葉で「るん」は風のこと梅の実ゆする六月のるん

吉本万登賀

泣き声の中に「まんま」の声拾う吾子よ言語の世界へようこそ
警察から患者死亡の電話あり カルテの森にひとり踏み込む

松岡 秀明

磨かれたる闇に螢は撒かれぬといつせいに消ゆる時の間のあり

岸並千珠子

昨晩のワンクリックが似たような広告連れて遊びに来たり

武富 純一

六月の水張り田の面の群燕風より下を飛び交ひてゐる

藤田紀美子

おもひではとほき夕焼け夏休み浴衣の肩に三つ編み揺らす

嶋 久子